令和４年度　日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会

中 間 報 告

令和４年７月～令和５年２月

目　次

1、日野町の幼児教育保育の現状と課題

（1）日野町の幼児教育保育の変遷 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

（2）幼稚園・こども園・保育所の定員、在籍数および施設の状況・・・・・・・・・・・・ 4

（3）稚園・保育所等の在籍者数および保育士数の変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

2、日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会について

（1）　第6次日野町総合計画に基づく検討課題の克服・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

（2）　日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会の設置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

（3）　懇話会設置の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

（4）　懇話会の委員体制・・ 7

（5）　子どもを取り巻く環境をより良くするために大切にしたい方向性・・・・・・ 7

（6）　懇話会の基本的な考え方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

（7）　懇話会の進め方 ・・・ 8

（8）　懇話会の開催経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

3、各層のワークショップの実施状況について

（1）　保護者向けワークショップの実施状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

（2）　在宅子育て層向けワークショップの実施状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

（3）　公民館ワークショップの実施状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

（4）　保育者（保育教諭）ワークショップの実施状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

4、今後の予定 ・・・ 25

1. 日野町の幼児教育保育の現状と課題

コロナウイルス感染症の蔓延に代表される予測困難な令和の時代を生き抜く子どもたち。幼児期に体験する遊びから、自分が「好きなこと・やりたいこと」を見つけて学んでいくことは、豊かな人間形成の基礎をつくるうえで、とても大切です。

子どもたちは、「家庭」での愛情や生活習慣、「保育園・幼稚園・こども園」での友だちや先生との集団生活、「地域」での自然や人とのふれあいなど、様々な関わりのなかで健やかで伸びやかに育っていきます。

しかし今、幼児教育保育の現状は、社会の就労形態の変化や核家族化等によって低年齢児から長時間保育を望まれ、保育所・こども園への入園希望が増え、幼稚園への入園希望が減少しています。また、教職員の確保、少子化、園舎の耐用年数の到来といった課題も抱えています。

これらの課題を踏まえ、日野町における持続可能な子育て環境の在り方を検討し、将来に向けて、地域の実情に応じた幼児教育保育の整備計画を策定し、保育の質の向上に向けた対策を早急に取り組む必要があります。

（1）日野町の幼児教育保育の変遷

施設および取組み事業の変遷

年度		できごと
昭和50年	4月7日	保育所こばと園竣工
昭和56年		わらべ保育園竣工
昭和59年	4月1日	必佐幼稚園２年制（４，５歳児）
昭和59年	4月4日	必佐幼稚園新園舎竣工
昭和60年	2月7日	南比都佐幼稚園新園舎竣工
昭和61年	1月11日	日野幼稚園新園舎竣工
昭和61年	4月1日	幼稚園全園２年制（４，５歳児）
平成元年	3月11日	保育所あおぞら園竣工（ふたば園、ひばり園を統廃合）
平成2年	2月28日	桜谷幼稚園新園舎竣工
平成3年	2月28日	保育所さくら園竣工
平成3年	3月6日	桜谷幼稚園西分園新園舎竣工
平成3年	3月21日	西大路幼稚園新園舎竣工
平成4年	3月22日	鎌掛幼稚園新園舎竣工
平成10年	4月1日	鎌掛幼稚園が日野幼稚園鎌掛分園となる
平成10年	4月10日	日野幼稚園鎌掛分園　３歳児保育開始
平成13年	4月1日	必佐幼稚園　３歳児保育開始
平成15年	4月1日	日野幼稚園　３歳児保育開始
平成18年	4月1日	日野幼稚園で預り保育モデル事業を開始
平成23年	4月1日	桜谷幼稚園と桜谷幼稚園西分園を統合し、西分園を桜谷幼稚園とする
平成25年	9月2日	町内幼稚園全園に空調機設置
平成26年	5月27日	第二わらべ保育園竣工
平成27年	4月1日	桜谷幼稚園と保育所さくら園が合同運営（桜谷幼児園）
平成27年	6月6日	保育所こばと園新園舎竣工
平成28年	4月1日	日野幼稚園鎌掛分園を保育所あおぞら園鎌掛分園（１、２歳児）に変更
平成28年	4月1日	南比都佐幼稚園　３歳児保育開始
平成29年	4月1日	認定こども園桜谷こども園運営開始
平成29年	4月1日	西大路幼稚園　３歳児保育開始
平成29年	4月1日	必佐幼稚園で預り保育モデル事業を開始

これまでも、３歳児保育や預かり保育の開始、桜谷幼稚園と保育所さくら園を桜谷こども園として運営開始、また日野幼稚園鎌掛分園を保育所あおぞら園鎌掛分園にして、低年齢児を受入れられる保育体制の拡大を図ってきたが、令和元年１０月からの幼児教育保育の無償化以降、保育ニーズの急激な高まりに対応が追いついていない状況となっている。

（２）幼稚園・こども園・保育所の定員、在籍数および施設の状況

（令和５年３月１日現在）

	幼稚園				こども園	保育所				
施設名	日野幼稚園	西大路幼稚園	南比都佐幼稚園	必佐幼稚園	桜谷こども園	あおぞら園	鎌掛分園	こばと園	わらべ保育園	第二わらべ保育園
定員（人）	180人	90人	90人	180人	120人	75人	30人	90人	90人	80人
園児在籍数	99人	13人	19人	66人	77人	82人	18人	91人	88人	79人
うち預かり保育数	29人			28人						
定員に対する充足率	55.0%	14.4%	21.1%	36.7%	64.2%	109.3%	60.0%	101.1%	97.8%	98.8%
園別充足率	36.5%				64.2%	98.1%				
敷地面積	4,842㎡	2,928㎡	3,062㎡	4,570㎡	5,270㎡					
延床面積	1,028㎡	531㎡	676㎡	1,160㎡	886㎡	542㎡	408㎡	810㎡	674㎡	688㎡
構造	鉄骨造	鉄骨造	鉄骨造	鉄骨造	鉄骨造	鉄骨造	鉄骨造	木造	木造	木造
建築年	S.60	H.2	S.59	S.58	H.2	S.63	H.3	H.26	H.10	H.26
建築経過年数	38年	33年	40年	40年	33年	35年	32年	9年	25年	9年

現在、保育所の定員に対する園児在籍充足率は、９８．１％と高いが、幼稚園は３６．５％にとどまっており、長時間保育を求める保護者が増加している。

また、施設の建築年は、公立園では、こばと園を除いて３０年以上が経過しており、老朽化の課題に直面している。

（３）幼稚園・保育所等の在籍者数および保育士数の変化

区分／年度	就学前人口	保育所等児童数								保育士職員数			幼稚園等児童数					幼稚園教諭職員数	備考
		定員			在籍人員			加配児					定員	在籍人員	預り保育	加配児			
		合計	公立	私立	合計	公立	私立	1:1	1:3	合計	公立	私立	合計	合計		1:1	1:3		
平成22年度	1,193	280	180	100	268	157	111			66	44	22	750	387	23			55	
平成23年度	1,215	295	195	100	290	179	111			66	44	22	680	386	27			52	桜谷幼稚園と桜谷幼稚園西分園を統合し、西分園を桜谷幼稚園とする
平成24年度	1,162	295	195	100	315	200	115			71	48	23	680	353	17			53	
平成25年度	1,112	295	195	100	330	217	113			75	52	23	680	337	13			54	
平成26年度	1,087	355	195	160	362	197	165			85	52	33	680	327	13			55	第二わらべ保育園竣工
平成27年度	1,114	385	225	160	394	220	174			84	48	36	720	317	15			57	保育所こばと園新園舎竣工
平成28年度	1,087	415	255	160	427	254	173			90	56	34	630	282	7			49	日野幼稚園鎌掛分園を保育所あおぞら園鎌掛分園（1、2歳児）に変更 南比都佐幼稚園　3歳児保育開始
平成29年度	1,029	465	285	180	439	258	181	9	22	122	82	40	570	241	18	7	24	47	認定こども園桜谷こども園運営開始 西大路幼稚園　3歳児保育開始 必佐幼稚園で預り保育モデル事業を開始
平成30年度	1,023	465	285	180	426	247	179	12	31	131	90	41	570	281	20	8	26	48	
令和元年度	992	465	285	180	424	250	174	7	38	139	96	43	570	272	38	9	26	52	
令和2年度	994	455	285	170	443	276	167	2	36	131	91	40	570	256	56	7	32	49	
令和3年度	934	455	285	170	426	261	165	3	33	139	98	41	570	227	49	5	26	47	
令和4年度	919	455	285	170	418	255	163	9	30	140	97	43	570	210	59	7	30	48	

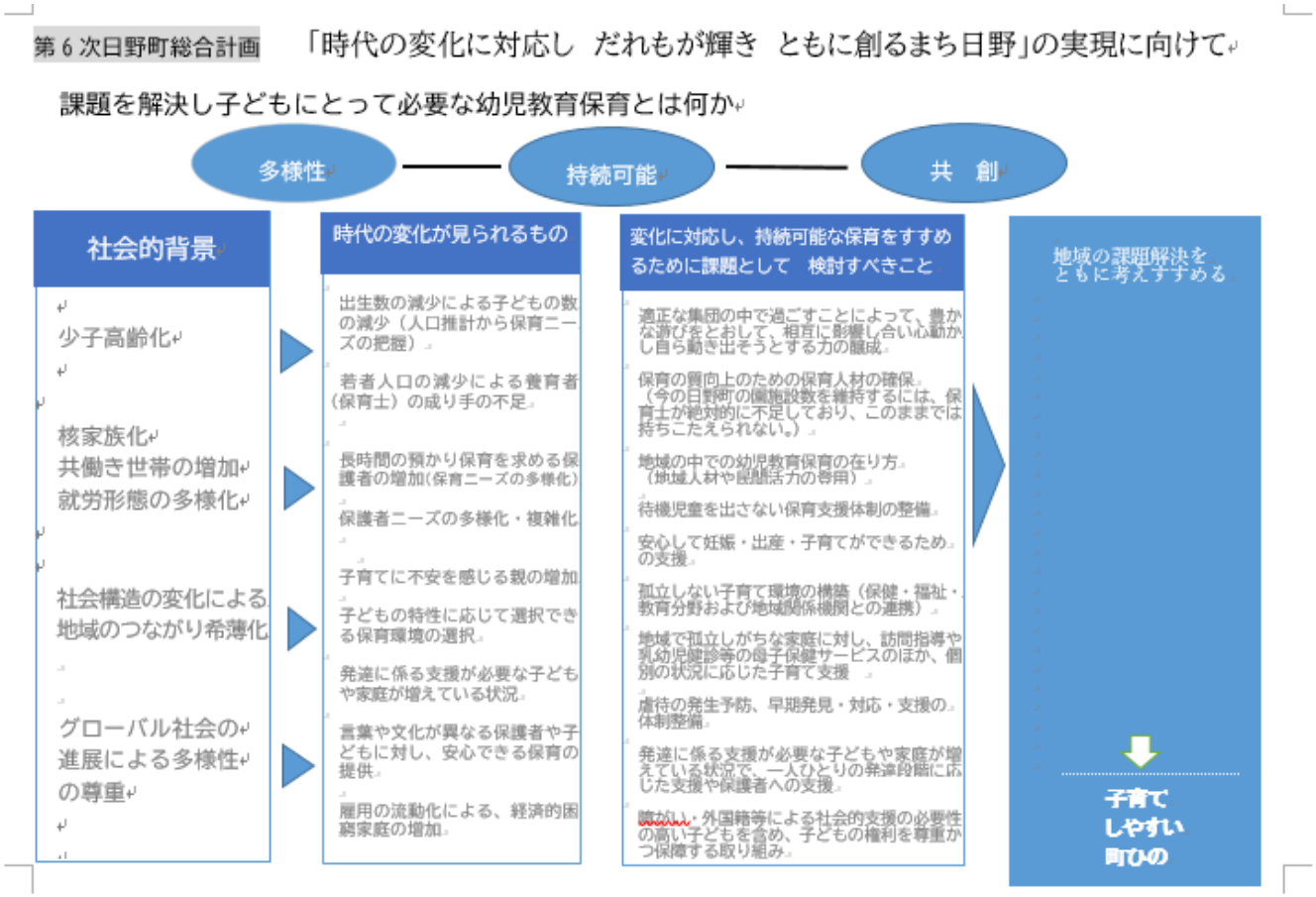
		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4				
就学前人口		1,193	1,215	1,162	1,112	1,087	1,114	1,087	1,029	1,023	992	994	934	919				
保育所入所者数		268	290	315	330	362	394	427	439	426	424	443	426	418				
幼稚園入所者数		387	386	353	337	327	317	282	241	281	272	256	227	210				
在宅		538	539	494	445	398	403	378	349	316	296	295	281	291				
保育士・教諭		121	118	124	129	140	141	139	169	179	191	180	186	188				
公立正規保育士等	採用数	2	2	2	2	2	5	4	4	4	2	2	4	4	39	13人増		
	退職数	1	0	2	0	3	1	2	3	1	4	3	5	1	26			

保育ニーズの高まりと保育士数の推移の関連については、ここ１０年余りで保育所入所者数は１．５倍に増え、幼稚園入所者数は 54.3％と半数近くに減り、在宅児も 54.1％とほぼ半減しています。

その間保育士数は、保育ニーズの高まりによって、平成２６年度の第２わらべ園の竣工や平成２９年度に桜谷こども園の運営開始等により、保育士数を増員して低年齢児からの受け入れられる保育体制の拡大を図っています。しかし、発達段階に応じた支援の必要な児童の増加もあり、保育士加配等をして増員して」対応する必要があったり、会計年度任用職員としてパートタイム保育士の増加により、長時間保育に対応したフルタイム職員が不足しており、保育現場における職員体制が充分に整っていない状況が続いています。

2. 日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会について

（1）第６次日野町総合計画に基づく検討課題の克服



（2）日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会の設置

子どもたちの育ちをめぐる環境は近年大きく変化しており、少子化や核家族化、共働き世帯の増加、保護者の就労形態の変化等により、長時間保育を求める子育て世帯が増えてきています。子どもたちにとってより良い幼児教育保育環境とは何かを最優先に、これからの幼児教育保育の在り方等について具体的な方向性を検討し、将来に向け持続可能な幼児教育保育をすすめるため、日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会（以下「懇話会」という。）を設置する。

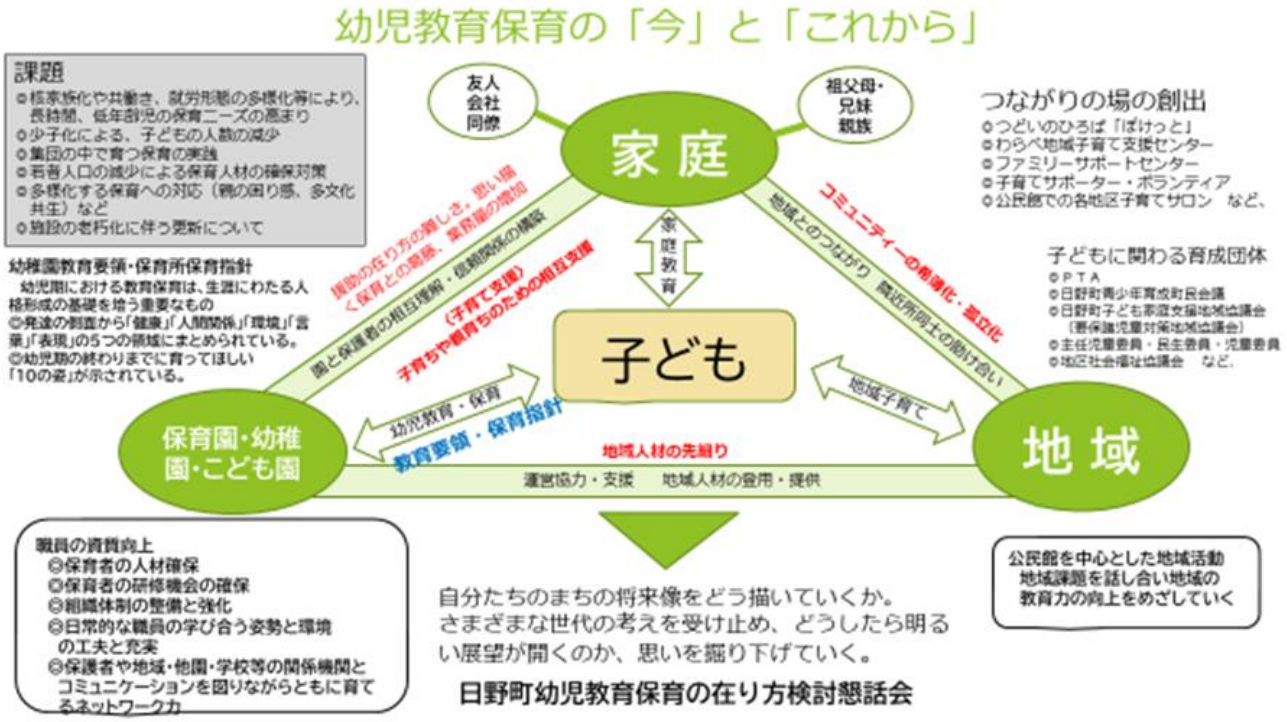
（3）懇話会の設置目的

１、　子どもたちにとってより良い幼児教育保育環境の提供に関すること
２、　より良い保育の質の向上をめざし、適正な集団規模に応じた保育の提供　　と保育人材の確保に関すること
３、　将来に向け、地域の実情に応じた幼児教育保育施設の整備計画に関すること
その他、前条の目的を達成するために必要な事項に関すること

（４）懇話会の委員体制について

・学識経験者　　２名
・保護者代表　　４名　公立保育園代表、私立保育園代表、幼稚園代表、こども園代表
・園代表　　２名　公立園長代表、私立園長代表
・福祉代表　　１名　主任児童委員
・公募委員　　４名　一般募集により選定された者
・事務局　　５名　教育委員会教育次長、厚生主監、子ども支援課３名
以上委員　１３名　　事務局　５名　　計１８名

（５）子どもを取り巻く環境をより良くするために大切にしたい方向性



（６）懇話会の基本的な考え方

子どもにとって何が大切か。親世代からみて「どのように子どもに育ってほしいのか」の本質を出し合えることが大切である。
そのうえで、懇話会の場が地域として子育て環境を主体的にどう描き、つくっていくのかの話し合いにしていきたいと考えています。

・この地区の将来像はどうあるべきなのか
・何年後にはどうなっていたいのか。

などについて、地域の方々が主体的に幼児教育保育のあり方に参画してもらえるようなしくみを考えていきます。そして、行政があらかじめ案を提示し意見を出し合うというのではなく、自分たちが将来ビジョンに積極的に関わっていくことによって、子育てのネットワークをひろげ、地域で子どもを育てていく風土の醸成につなげていきます。

懇話会の下に地域の声を拾い上げられるよう、幼児施設や公民館などでテーブルを囲み、顔と顔をつきあわせながら、話し合えるワークショップ形式ですすめていきました。そこで出された意見を受け止めて、懇話会で議論をまとめあげる形をとってすすめていきました。

（7）懇話会の進め方

（懇話会がめざすところ）

1、子どもたちにとって最適な幼児教育保育環境とは何かを最優先に、これからの幼児教育保育の在り方等について具体的な方向性を検討し、将来に向け持続可能な幼児教育保育施設の計画策定をおこなう。

2、在り方の具体的な方向性は、子育てを享受する現在の子育て層やこれから子育てをめざそうとする人たち、および地域の方々から意見を聴く機会を設け、その思いの重なり合う部分を掘り下げていく。

3、課題は見えるようにする。住民と課題を共有して共に考えられるようにする。

4、「将来像」と「優先順位」の可視化を第一段階の到達目標とする。
子育て層、若者層、在宅保育層、一般層など各層の描く将来像が見えるように議論をまとめ、その中から優先度の高いものから順に可視化していく作業をおこなう。

（各層からの将来像収集）

1、子育て層は、エリアごとに状況が異なるので園単位でおこなった。（7月～9月）
- 保育園は、園で実施する子育て講演会の中でワークを実施した。
- 幼稚園は、登降園時間を活用してワークを実施した。
- 就学前の在宅保育をしている子育て層は、ぽけっとなどでワークを実施した。
- 若者層は日時未定であるが、各種団体と連携をして意見収集をしていく。

2、一般層の地域からの将来像収集は、地域と園の結びつきが強く、地域の実情が異なることから、公民館単位でおこなった。（11 月～12 月）

3、保育士・保育教諭からどのような保育をめざしていきたいかの意見を聞く場を設けた。（12 月～1 月）

（8）懇話会の開催経過

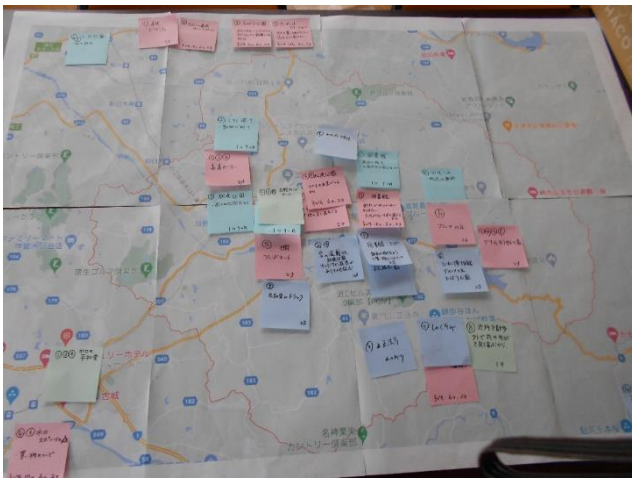
第１回　懇話会　令和４年７月１２日（火）
（内容）委員の委嘱、町長からの答申、基本的な考え方と今後のすすめ方・スケジュール等について

第２回　懇話会　令和４年１０月２４日（月）
（内容）保護者向けワークの結果報告、公民館ワークのすすめ方等について

第３回　懇話会　令和５年１月２４日（火）
（内容）公民館ワークの結果報告、保育者ワークのすすめ方等について

第４回　懇話会　令和５年２月２１日（火）
（内容）保育者ワークショップの結果報告、中間報告について

３．各層のワークショップの実施状況について



(1)　保護者向けワークショップ実施状況について

子育て環境の未来像をいきなり聞かれても答えにくいため、身近な子育ての話なら話しやすいので、子どもを連れていく場所を聞き、「子どものため」なら、どんな希望や期待を持ってそこに行く選択をしているのかを掘り起こした。

「今日はどこに行こう会議」と銘打ち、想いが重なり合うところを確認し、子育て環境の将来像を考える一次資料とした。

◆保護者向けワークの参加状況

園　　名	開催日	男　性	女　性	計
日野幼稚園	９月１３日	０人	８人	８人
西大路幼稚園	９月１３日	２人	１１人	１３人
南比都佐幼稚園	８月３０日	１人	９人	１０人
必佐幼稚園	９月９日	１人	１５人	１６人
桜谷こども園	９月９日	１人	２６人	２７人
あおぞら園	７月２１日	４人	２６人	３０人
あおぞら園鎌掛分園	７月２１日	１人	１３人	１４人
こばと園	７月１３日	２人	２７人	２９人
わらべ保育園	８月２４日	４人	４人	８人
第２わらべ保育園	９月９日	３人	８人	１１人
合　　計		１９人	１４７人	１６６人

◆ 保 護 者 向 け ワ ー ク の 実 施 結 果 に つ い て

「日々、子どもを連れて行く場所」を選ぶ動機から、子育てに必要な場所を明らかにしました

未就学児を連れて行く場所の概念図
幼保園をとりまく、どのような場所に子どもを連れて行っているのか、代表的な場所を表します

連れて行く動機別の目的地

【例１】広い屋外、日陰のあるところに連れて行きたい
自然空間、公園など

【例２】子どもの同年代が多い、依年齢交流が生まれるところに連れて行きたい
松尾公園、ひばり野公園、近所の公園など

【例３】保護者同士同世代でわかり合えるのがいいところに連れて行きたい
松尾公園、友達の家、遊具がある近所の公園など

【例４】親子で心地よくいられる場所、買物ついでに子どもが遊べる
松尾公園、町外河川、自宅・実家・友達の家、町内商業施設、町外ショッピングモールなど

【例５】安いので子どもにねだれても買いやすい、ショッピングセンターに子どもが乗ってくれる種類のカートがある、立体駐車場があり雨に濡れずに買物できる
百均、町外ショッピングモール

【例６】子どもの趣味に合わせたところに連れて行きたい
図書館、日野駅、動物と触れ合える場所、公園、百均など

【例７】近い、じじばばが好き、私がラク、昔の遊びを教えてくれるところに連れて行きたい
実家など

ポイント

図書館や公民館、松尾公園やブルーメの丘などの公園の利用率高い
町内外の商業施設が利用されている
子どもの年代によっては町外の公園を利用する
水遊びは町内ではない、自然遊び系が極端に少ない

◆第2回懇話会（令和4年10月24日開催）での議論

懇話会では、ワークショップの結果を基に各委員がそれぞれの見識等に基づいて意見交換を行い、活発な議論をおこなった。おもな意見のまとめは以下のとおりである。

○園の外側でいろんなところがいろんな目的で使われているのだなと改めて感じた。
園の外側に二重にも三重にもそういった子育てを支える環境というものがあることは大事なことだと思う。

○大切なのは、「大人の目」です。一人で連れていく場合と、夫婦で連れていく場合と、お友だちと連れていく場合と分けてワークでは聞いていますが、やはり大人の目が増えると安全・安心面でやれることも変わってくる。

○日野町の中ですべて揃ったらいいのですが、それがそもそも必要なのかというのは、一度立ち止まって考えた方がいいと思います。日野町は日野町で、今のままでもいいところがあるので、どこまで求めるのかなと思います。

○雨の日に行くところがないというのは聞いております。晴れたら公園とかありますが、雨の日に子どもたちと安全に過ごせるところがありません。子どもたちもずっと家に中にいるとストレスが溜まってくるので、どこかで発散させてあげたいと思っておられますが、日野町内にそういう場所がないというのは、子どもたちも保護者の方もストレスが溜まるのかなと感じました。

○自分たちで約束して自分たちで集まれる場所、松尾公園のような公園が必佐地区にもほしいなと思います。

半数以上の子どもが学童に行かれていて、夏休みも学童に行けない子たちはどうして遊ぶのだろうという不安もありますし、子どもたちが自分の足で行ける場所が、子どもが自ら行ける距離に集まれる場が欲しいなと思います。

○仕事をしながら公民館の実行委員とか保護者会（ＰＴＡ等）で活動するという余裕が全くない。それが全部子どもたちに影響したり、幼稚園・保育園にしわ寄せがきたりしている。親同士のコミュニティが崩れてしまっているので、もう１回そこらあたりを懇話会で提言というか、幼児教育保育から日野町のまちづくりを考えることをやっていける会になるといいなと思います。

○同じ集落内でアパートに住まれている方でも、子ども会に入っている方はお母さん同士がつながっていて把握できますが、そうではない方は、子どもさんはおられますが、どういう人が住んでおられるのか、保護者会としてはそこまで把握することが難しいです。そうすると子どもの存在が見えなくなり、保護者が孤立するというケースがあり、日野町もアパートのある地域において顔が見えにくいなどコミュニティーの難しさは大きな課題だと思います。

○私はワークショップにずっと行っていて感じたのは、「実家」です。日野町の方は実家って居心地のいい場所なのですね。実家がこんなによく出てくるのが不思議でなぜ実家に行かれるのかと聞いてみたいと思いました。

私が勤める園は大きな敷地で、何でもあります。でも私は保育者に「散歩に行きなさい」と言っています。散歩に行かなくても全部揃っています。遊歩道もあるし、創作活動ができるワクワクの森もある、ピクニック広場もある、ビオトープもある、築山もある、ありとあらゆるものを揃えたけど、足りないのです。何が足りないのかなと思ったら、地域住民の方、**社会との接点**が全くないのです。今は園に車で来て車で帰られる。歩いてどこかへ行くということがほとんどな

くて、地域に住んでいるのに、地域のことをほとんど知らないので、これは園がやらないといけない。いくらいい園庭を整備しても、秋とか春とか季節のいい時にはどんどん外へ出て、どこかへ行って何かをするのではなくて、おじいちゃんやおばあちゃんが畑をしているのを見るとか、あそこの川に何かいるのを見つけたりするのは面白いなとか、**自分たちが住んでいるまちを肌で感じることがないのです。**

わざわざ実家に行かれるというのは人とのコミュニティかなと思いました。お母さんが癒されるのかもわからないし、家のつくりや家族構成に癒されるのか、子どもにとっていい場所なのかなと思いました。

私は子育て支援をやっていますが、子どもが行くところは、椅子があって、手洗いができて、ちょっと屋根があって、トイレがあったらなおいいし、それだけあったら子どもは遊ぶので、特別大きな公園をつくらなくても、地域の中の公園にちょっとそういう整備をしてあげる。小さな赤ちゃんを連れているお母さんだったらオムツ交換ができなかったら困るだろうし、そういうちょっとしたことを整備していくことで、勢いを付けて行くようなところではなくて、普段、帰り道にちょっと寄って遊ばせたりできるようなスポットを、日野はすごく環境がいいと思うので、できるのではないか。

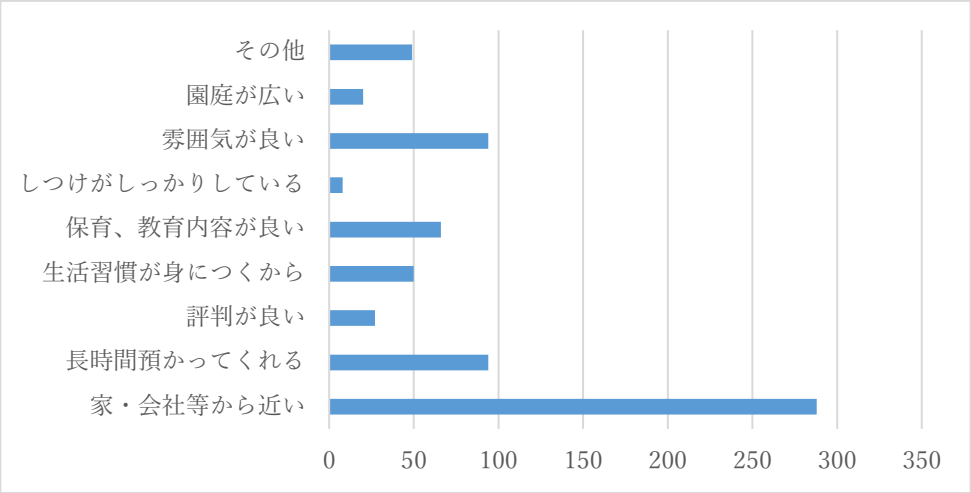
田舎でみどりはあるけど、そこに座りこんで遊べない環境になっていないか。

前にいた園では、幼稚園から帰って、子どもが遊ぶ待ち合わせ場所は幼稚園です。帰ってからみんな自転車で行くのです。子どもたちにわかる集合場所とか、大人が何かをしてあげないといけないのではなくて、子どもたちが安心して遊べるスポットがあってもいいのかなと。日野町マップをもう１回見て、そういう場を見つけていただいたら、できないことはないと思っています。

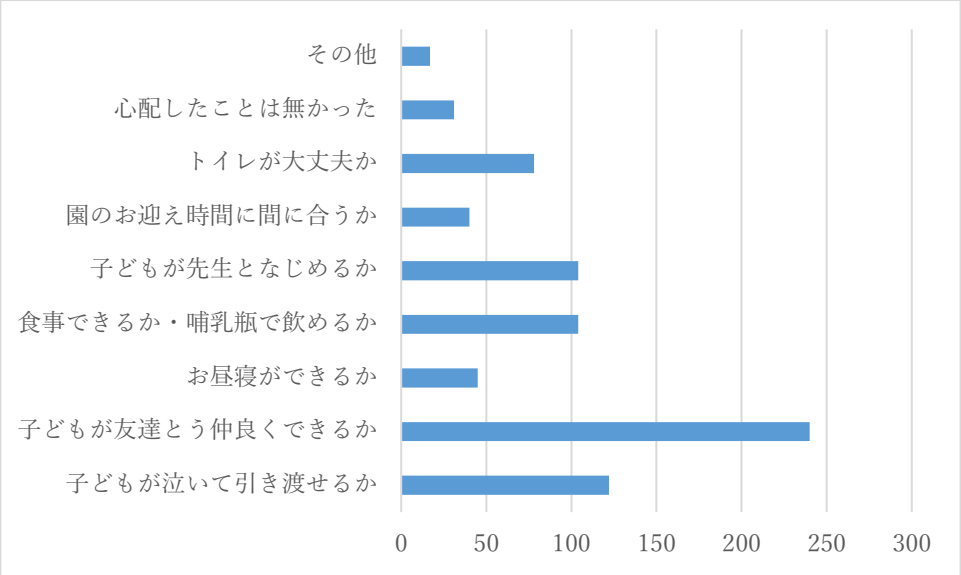
◆保護者向アンケート概要

ワーク実施に合わせて、園に子どもを通わせている保護者へアンケートを行いました。以下に結果概要を示します。

問１　あなたがこの園を選ぶときにどのようなことを重視しましたか。該当するものを、３つまで選んで下さい（〇は３つまで）

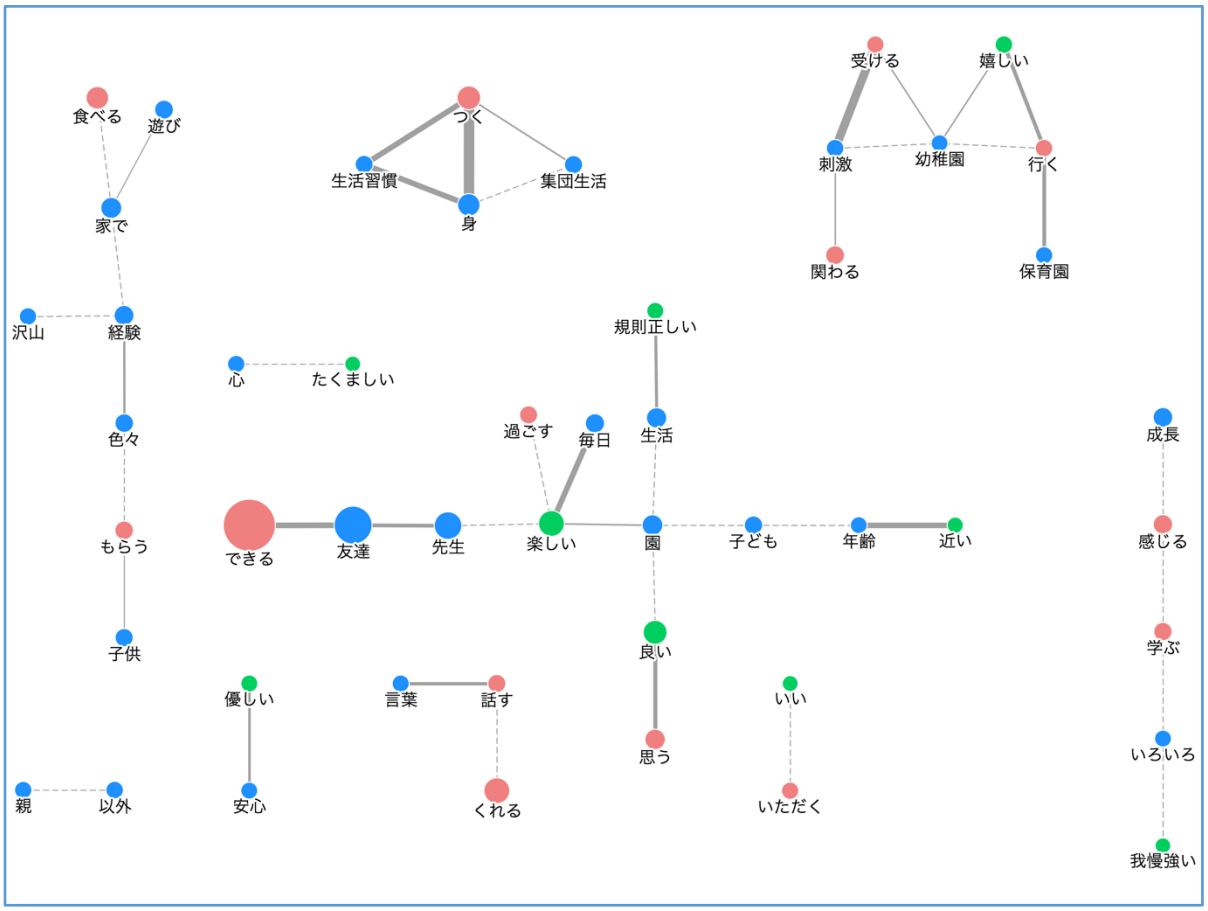


問２　あなたが入園時に心配したのはどのようなことでしたか。（あてはまるものすべてに〇）



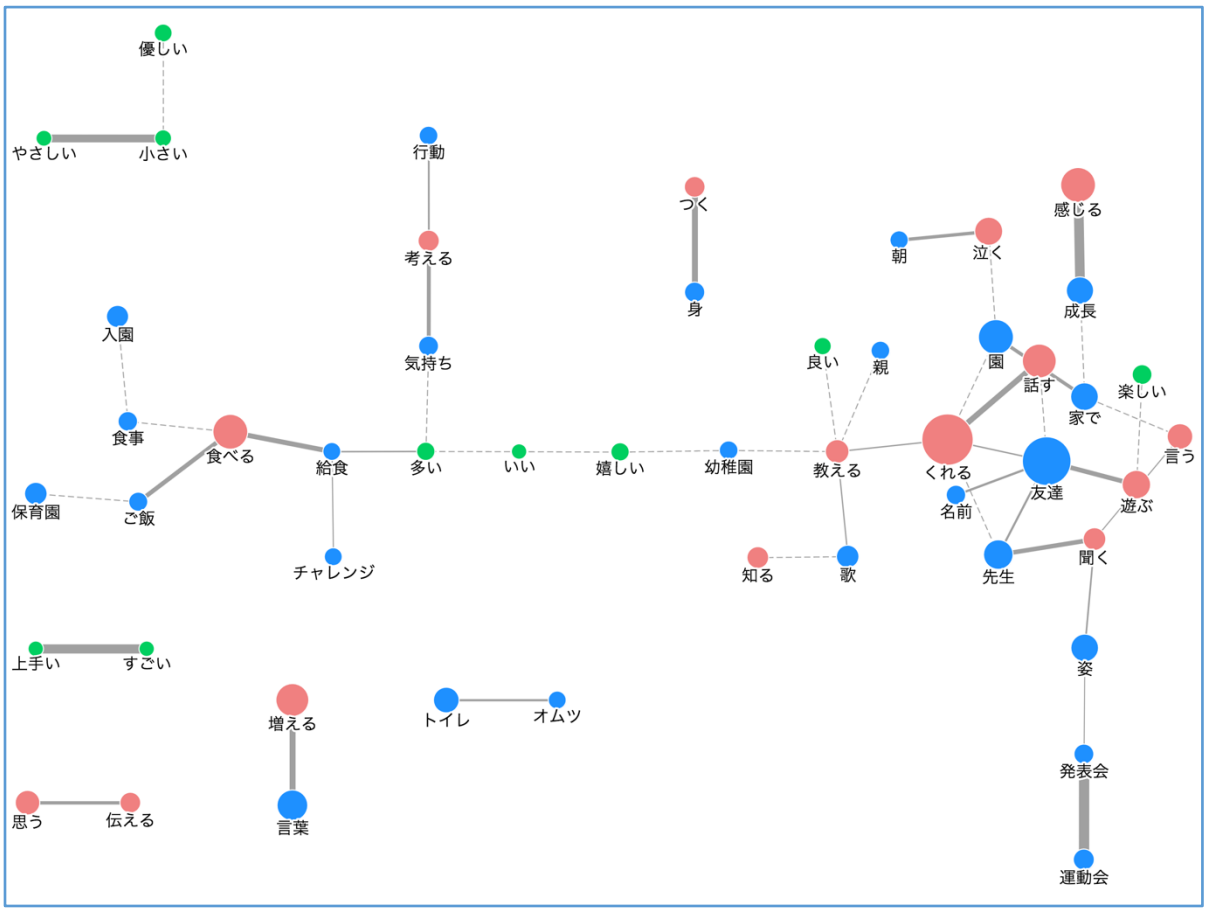
問３　あなたの子どもが入園して良かったことは何ですか。（自由記述）

回答内容を共起キーワード図にしました。〇が大きい程出現数が高く、線が太い程共起の程度が大きくなります。

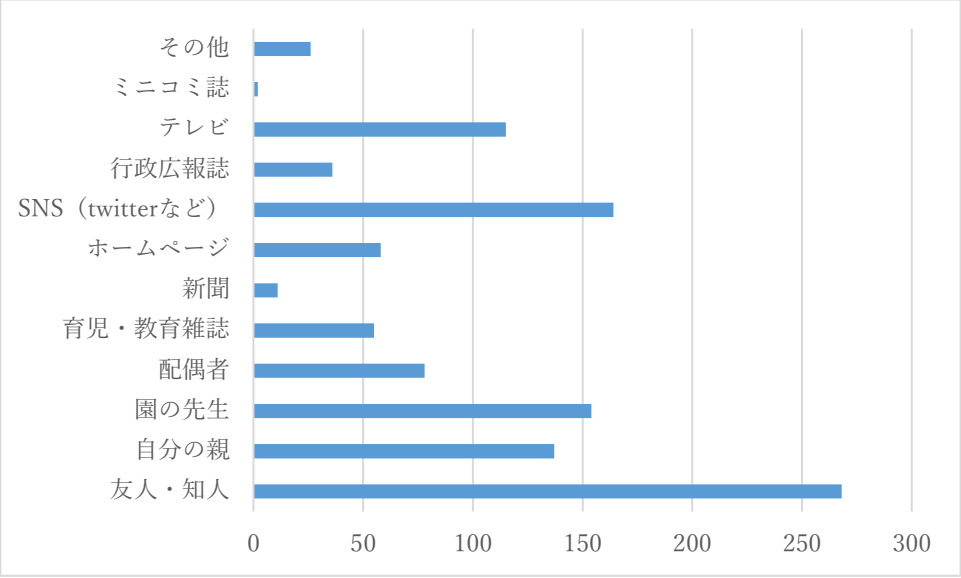


問４　入園後、あなたが子どもの成長を感じたのはどんな時でしたか。（自由記述）

回答内容を共起キーワード図にしました。〇が大きい程出現数が高く、線が太い程共起の程度が大きくなります。



問５　あなたが子どもの教育や育児の情報についてどこから（誰から）得ていますか



（2） 在宅子育て層向けワークショップの実施状況について

	開催日	男　性	女　性	計
つどいのひろばぽけっと	１１月２８日	０人	８人	８人
合　　計		０人	８人	８人

おもにぽけっとを利用する在宅で子育てをしている保護者の方を対象に、園の保護者同様に「今日はどこに行こう」会議を実施した。

（3） 公民館ワークショップの実施状況について

地域の実情に応じて子育て環境をどう描き、創っていくのかなどについて、広く意見をいただくために住民の皆さまから意見を聴くワークショップを実施しました。公民館および区長会のご協力を得て、子育てに関心のある方や地域で子育て支援に関わる方々が多く参加いただきました。

◆公民館ワークの参加状況

公民館名	開催日	男　性	女　性	計
日野公民館	１２月１５日	９人	１１人	２０人
東桜谷公民館	１２月２２日	１８人	６人	２４人
西桜谷公民館	１２月８日	４人	１１人	１５人
西大路公民館	１２月１６日	１３人	１１人	２４人
鎌掛公民館	１１月３０日	７人	１人	８人
南比都佐公民館	１２月２日	２８人	１６人	４４人
必佐公民館	１２月２０日	１１人	１２人	２３人
合　　計		９０人	６８人	１５８人

◆　ワ　ー　ク　の　実　施　結　果　に　つ　い　て

「子どもにとって大切だと思うところを教えてください」と題して
①自分が小さい頃に遊んだところ
②子どもを遊ばせたいところ
③子どもに出会ってほしいもの
④町内（または孫、親戚などの身近な）の子ども達と日ごろどう付き合っている？
の４点をお尋ねしました

子どもにとって大切だと思うところの概念図

幼保園をとりまく、場所・行事が挙がりました

上記を踏まえた上で「近所の子ども達とこれからどう関わりたいですか」とたずねました。

関わり方について、地域で育てるといった**地域特性を含めた**いくつかの案が示されただけではなく、

住みやすさの観点からの課題も提示されました。特に親子連れが居住しやすいかについても意見がありました。

ポイント　地域に応じた子ども・親子の「**居場所**」

○かつてあったが、現在無くなったもの　※集落内、行事
○現在ある居場所、これから作れる居場所　※商業施設、公共施設、集落内
○現在の子どもの状況に応じた居場所

保護者ワークショップと共通しますが、かつて子どもが居た、**集落内の自然や地域行事**が、場所による違いはありますが減少しています。

親子が住める場所はあるか
帰って来たいと思える経験を子どものうちに積んでいるか
といった問題提起もありました。

◆第3回懇話会(令和５年1月24日開催)での議論

第３回懇話会では、公民館ワークショップの結果を基に各委員がそれぞれの見識等に基づいて意見交換を行い、おもな意見のまとめは以下のとおりである。

○子ども会、催事、地蔵盆、春祭り、お正月のお参りなど、なぜやっているのかということを地元の方や移住して来られた方と、いろいろなところで交流していく中で、お祭りはなぜ始まったのかということを私は意識して話をしています。

何をやるのにもエネルギーは必要だとは思いますが、子どものためだけではなく、大人も子どもを媒介にして交流ができる、楽しめるというのが子ども会や子ども団体のよいところだと思います。子どもの居場所もですけど、大人も居場所があればなとも思います。

○地域の行事や幼稚園・学校の行事で他の人とつながれてよかったなという経験を、子どももですが保護者さんも感じて、積極的に少しでも繋がりたい、協力できることからしたいなと思える気持ちが増えるといいなと思います。

○子どもの行事も大人主導になっています。子どもは、参加してもらうだけの行事となり、子どもには楽しい思い出となりますが、やはり大人の負担が大きいです。

集落の行事を支えてくださっているのは 60 歳から 70 歳代の高齢の方々が多く、今の子育て世代がそれを引き継いでいけるかというと、難しいと感じています。その集落だけで守っていくのは難しくても、もっと大きな地域で一緒にやっていけるような形をとれればと思いますが、全体が話し合う機会が少ないので、皆さんが意見を出し合えるような環境をつくるとか、懇話会で出た意見を皆さんに見ていただけるような機会が持てたらいいなと感じました。

委員長：実はスタッフ中からも、このワークショップの結果を町民の方々に見ていただく機会をつくってもいいのではないかという意見があります。

○私は自分の気持ちの持ち方として、面倒くさいことにこそ意義があると思っています。そのことを若い人たちにどう伝えたらいいのかなと思っているのが今の私です。

子どもにやらせたら時間がかかるし、でもやらさないと体験できないから、じっと待っているのは面倒だなと思いますよね。でも、その面倒をクリアすると、子どもの「できたよ！」という顔が見られたりします。

保護者会で話している中でも保護者自身が、自分がこうしたいという意見を実現できた時には「よかったです！」と言ってくださるので、私はそこかなと思っています。

それと、前から思っていたのですが、農作業を機械でしないで手作業ですると色々なことが勉強できるし、人との関わりも勉強できるので、空いている田を高齢者と子どもたちが一緒につくるのが、私の理想です。高齢者の居場所づくりと子どもたちの体験が一緒にできる、それをしてくれる人がいないかなと思っていて、園の子が体験できたらいいなというのが私の願望です。

○小さな集落なので、「今日バーベキューしようよ」「花火が余っているのでみんなでやりませんか」など、大人が主体になり、子どもたちも楽しめるようなことを考えながら、横のつながりを持つようにしています。小学校へ行く時に関係性が取れていたら、ひとりで行くのではなくて、知っている子がいる。あのお兄ちゃんやお姉ちゃんがいるという形ができると小学校の中でもひとりぼっちでないよという感覚が生まれるのではないかと思います。

○面倒だ、面倒だと保護者が言っていて、それを子どもが聞いていたら、子どもはやる気をなくしてしまう。保護者がやりがいを持って、面倒くさいなと思いつつも、子どもたちに魅力を伝えて、大人が楽しんでいる場面を見せると、子どもたちも、こんな楽しいことがあったなという思いになってくるのかなと思います。

マイナスなイメージを聞き続けると、どうしてもマイナスになり、これっきりになって終わってしまうことも多々あるのではないか、だから**保護者の責任**というところが問われるところでもあるかなと思います。

委員長：確かに大人が思っていることは子どもに伝わるというのはすごく感じています。今回の公民館ワークショップでも何度か聞いた話ですが、大人が日野町や集落のことを悪く言う、田舎だとか、こんなところに住むべきではないなどと言っていたら、それは当然、子どもに伝わるという話が多く出ています。**大人が言動や行動を変えないと**、子どもたちにはネガティブな伝わり方がするのかなと、今のお話を聞いて思いました。

○居場所づくりについて、私は移住者なので特に思うのですが、地域で活動する移住者はすごく多い印象があります。あと、移住者でなくても、もともとの町民で市民活動をされている方は多いと思います。ほかの地域と比べても多い方だなと思いました。

最近では移住者同士でＳＮＳを活用して「シャクナゲ渓ウォーク」を始めました。自然を使った活動ができる場所をみんなでつくっていけたらいいなと思っています。

（4） 保育者ワークショップの実施状況について

保育現場の今は、時代の変化とともに、多様性が尊重される共生社会の中で、様々なニーズを抱えた保護者や子どもへの支援が必要となり、保育者の対応も実に多様化している。今回、公立園と私立園で働く保育教諭が雇用形態に関わらず、一同に会し交流を深め、保育現場から見た子育て環境の将来像について意見交換のワークショップを実施した。

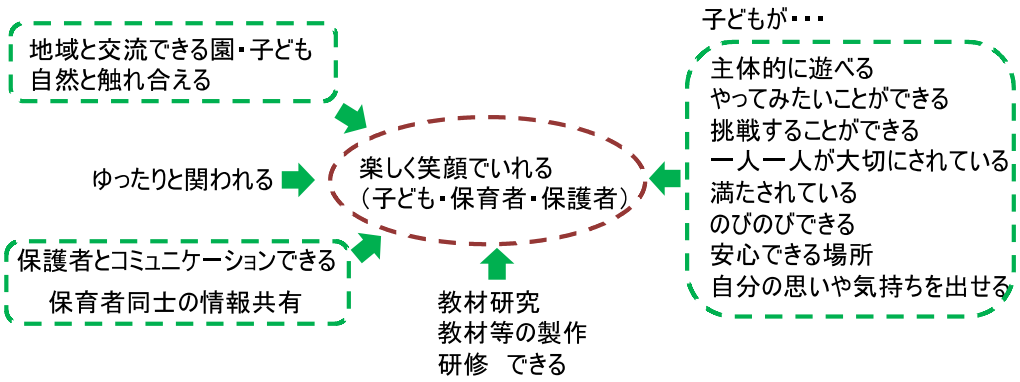
◆参加状況

開催日	公立園	私立園	計
１２月１５日	６人	３人	９人
１２月１６日	２２人	２人	２４人
１２月２０日	２０人	３人	２３人
１月１３日	２６人	３人	２９人
１月１８日	１５人	７人	２２人
合計	８９人	１８人	１０７人

◆ワークの実施結果について

日野町内で子育て環境（園）が続いていくための課題 を把握するために２つのワークを行いました

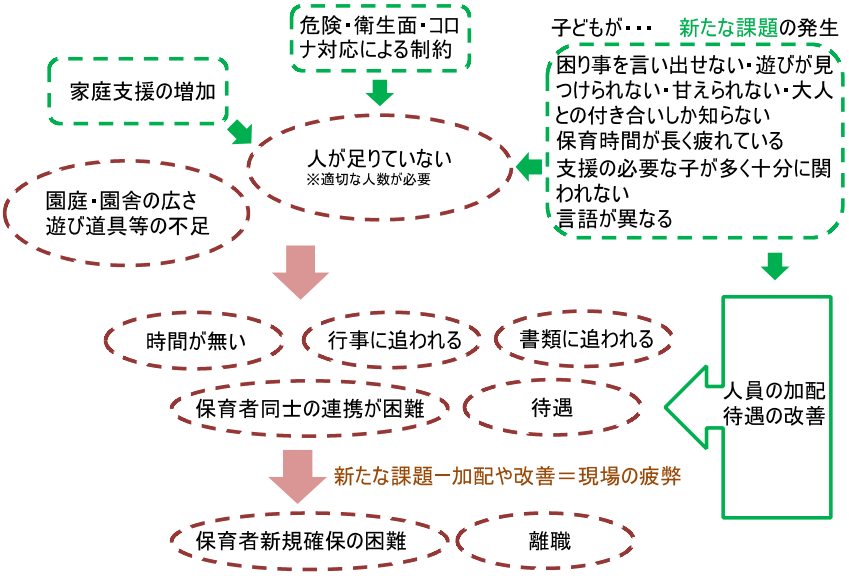
①あなたの思う「こんな保育をしたい」を教えてください



笑顔・楽しくという言葉が頻繁に出現しました。
一方でゆったり、のびのび、できる　といった言葉も多く出て課題も示唆されました。

ワークショップでは終了後に感想カードを実施しましたが、「同じような悩みを持っている人がいて安心した」「他の保育者と交流する機会が持てて良かった」とする意見が多く見られる一方、**本ワークショップが今後どう生かされるのかについての懸念**も示されました。

②それを叶えるためにはどんなことが必要ですか？



子どもについての新たな課題、家庭支援の増加といった状況に対し、加配や待遇改善が行われているものの、結果としては現場が疲弊していることが示されました。

ポイント

人が足りていない**だけでなく**、子どもについての新たな課題や家庭支援の増加もあり、子育て環境全体の課題を町民の皆様と共有が必要

◆第4回懇話会(令和５年2月21日開催)での議論

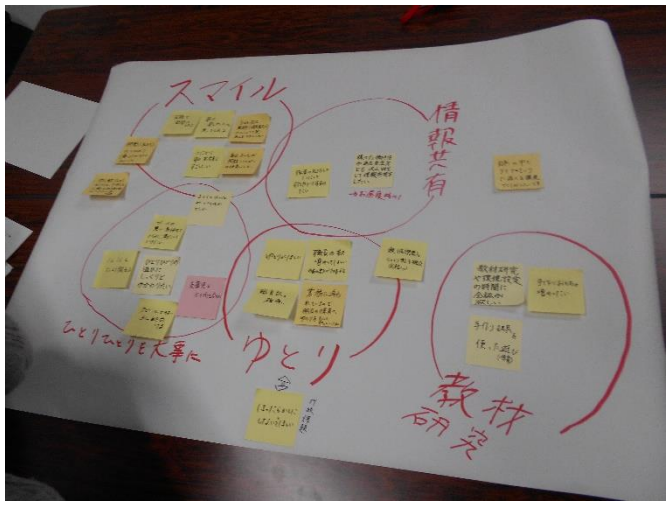
第４回懇話会では、保育者ワークショップの結果を基に各委員がそれぞれの見識等に基づいて意見交換を行い、おもな意見のまとめは以下のとおりである。

○保育定数が今の保育にあっていないのではないか。見てやりたくても見てやれない状況がある。
○幼稚園は、３歳になってはじめて集団生活に入る。保育教諭は保護者と信頼関係を築き、入園時にできるだけ丁寧に普段の生活の様子などを聴き取り、子どもの成長を支えていく。若い先生にはなかなか経験が浅いと保護者対応も難しく、先生の力量にかかってくる。そこに負担を感じてしまう職員もいる。

○保育環境の改善は重い課題である。先生はもっと子どもに声をかけたいけどかけられない。子どもも先生ともっとしゃべりたいけど、現状はむつかしい。親も先生にあまり負担をかけたくないとの思いもある。先生の思いと保護者の思いがすれ違っている気がする。

○クラスの人数が増えると、子どもと先生に負担がいってしまう。適正な人数をもとに施設運営をすすめていくべきではないか。
○保育士と保護者が保育内容や方針を共有できれば、保育のねらいや園に対して協力関係がもっと築けるのではないか。人が足りない。物が足りない。などとなるまえに工夫により改善できることがあるのでないかと思う。

○物的環境が足りているか。保育のねらいにあったおもちゃの量が足りていないのではないか。
○園に保護者も頼りすぎていないか。保育現場の厳しい実情をもっと保護者も地域の大人も情報共有が必要であり、知ってもらえるよう情報発信もしていく必要がある。



◆保育者アンケート調査の結果(抜粋)

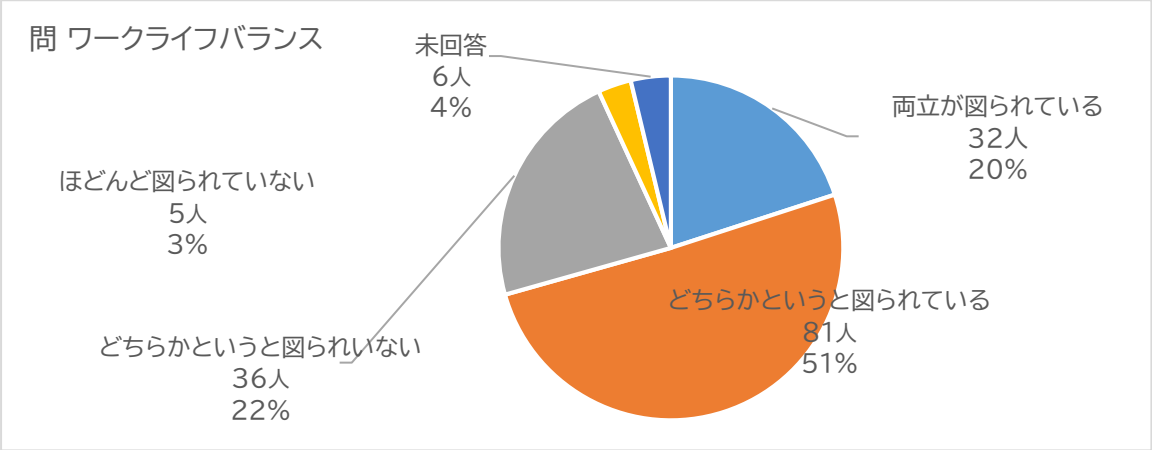
保育に従事する職員から声を聞き、働きやすい職場環境と処遇改善が図られるよう、具体的な協議を実施していくため、その基礎資料として、思いを得ることを目的として、「日野町保育者アンケート調査」を実施した。

調査対象：日野町内の公立幼稚園・保育園・こども園に勤務するすべての職員（会計年度任用職員含む）
調査実施期間　　令和４年９月
配布対象者の総数　１６６人　有効票の回収数　１６０票　　回収率　９６．４％

～以下、アンケート結果の一部を抜粋して掲載します。～

問　あなたは、仕事と家庭（プライベート）の両立（ワークライフバランス）が図られていますか。

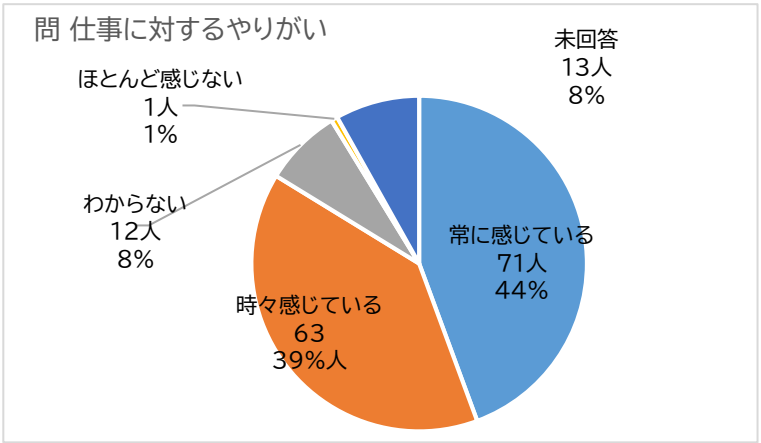
1．両立が図れている	32 人	
2．どちらかというと図れている	81 人	
3．どちらかというと図れていない	36 人	
4．ほとんど図れていない	5 人	（未回答　6 人）



配偶者の有無とワークライフバランスの相関関係については、図られている・どちらかというと図られていると回答したのは、配偶者有りの人が 92 人（76.7%）。配偶者なしの人が 20 人（54.1%）である。配偶者有りの人の方がワークライフバランスが図られているという結果である。

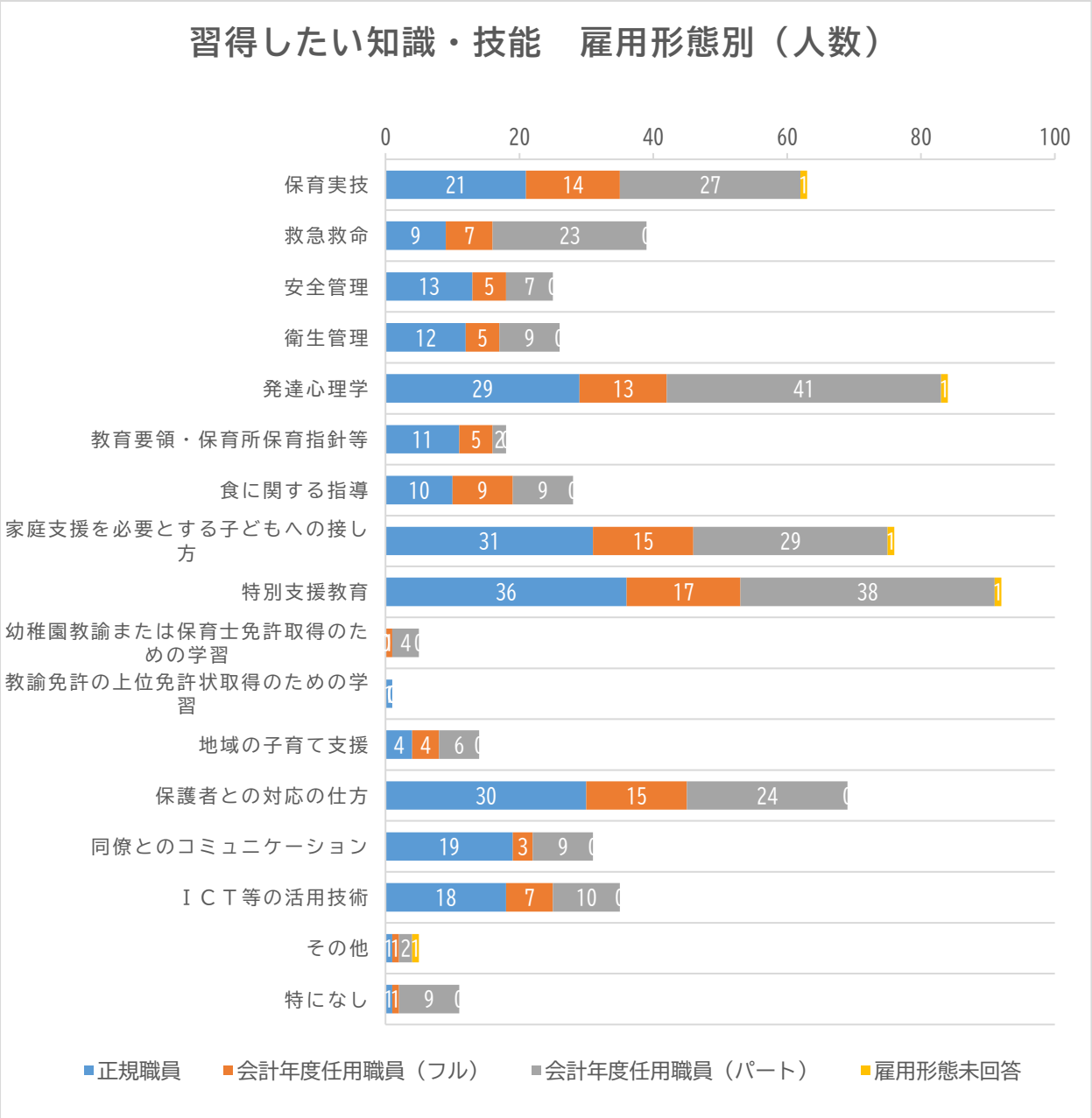
問　あなたは、保育者の仕事にやりがいを感じておられますか。

1．常に感じている	71 人	
2．時々感じている	63 人	
3．わからない	12 人	
4．ほとんど感じない	1 人	（未回答 13 人）



仕事のやりがいについては、「常に感じている」が 71 人（44.4%）、次いで時々感じているが 63 人（39.4%）で、全体の 83.8%の人が感じていると回答。

問　あなたは、保育者としてやりがいをもって働くために習得したい知識や技術はありますか。下記の中から選んでください。（〇はいくつでも）



習得したい知識や技能で最も多くの回答があったのが、特別支援教育 92 人（57.5%）、次いで発達心理学 84 人（52.5%）、家庭支援を必要とされる子どもへの接し方 76 人（47.5%）、保護者との対応の仕方 69 人（43.1%）の順である。これら上位の項目のいずれも、現代的課題と多様化する社会の中で保育環境のおかれている難しさや複雑化に保育者として対応していかなければならないものばかりである。

日野町の保育者はそうした課題に向き合って乗り越えていこうとする前向きな姿勢の表れであり、個々の力量を伸ばし、全体の組織力向上のためにも技能習得の機会確保を検討する必要がある。

◆アンケート調査結果のまとめ

保育現場の今は、時代の変化とともに、多様性が尊重される共生社会の中で、様々なニーズを抱えた保護者や子どもへの支援が必要となり、医療的ケア児、障害児、外国籍の子どもや、家庭環境に特別な配慮が必要な家庭の子どもなど保育者の対応も実に多様化している。日野町の保育者の雇用形態も大きく変わり、正規職員の人員数は以前と比べ横ばい状況であるが、個別支援が個々に応じて多様化複雑化してきていることから、支援児対応をする会計年度任用職員のパートタイム職員が増え、全保育者数の半数を超えている。そうした中にあって、保育者は忙しい中で多様な子どもを受け入れており、より高いレベルの専門性が求められている。全職員の年齢層も４０歳代が最も多く、次いで６０歳以上、５０歳代と高年齢化しており、３０歳代以下は全職員の３割で持続可能な次代を担う保育人材の育成・確保が課題である。

今回の調査により改めてわかったことは、保育者の多く（83.8%）が仕事にやりがいと誇りを感じていることである。やりがいである「園児の成長」に注力できる環境をつくることが重要となる。

保育者としてやりがいをもって働くために習得したい知識や技能については、「特別支援教育」が最も多く、次いで「発達心理学」、「家庭支援を必要とする子どもへの接し方」であった。これは、日野町の保育者が現代的課題に向き合って乗り越えていこうとする前向きな姿勢の表れであり、個々の力量を伸ばし、全体の組織力向上のためにも技能習得の機会確保を検討する必要がある。

また、保育者同士が雇用形態に関わらず、積極的に学び合える職場の風土をつくるために時間的・人員的に余裕のある体制づくりが大切である。

しかし、近年、業務量が増え、人員不足から膨大な記録と書類が残り、勤務時間内に終われない状況が続き、持ち帰り残業や休日出勤が常態化しており、特に正規職員の４８人中２６人（54.2%）が仕事と家庭の両立が図れていないと回答している。正規職員の負担軽減、事務改善をおこなうこと、特に若手職員の人材育成にしっかりとした取組みをしていかないと、人材の流出や喪失に歯止めがかからない状況となり、日野町の保育が危機的状況に陥る可能性がある。日野町の保育の質向上のために何が課題であるかをアンケート調査結果から考察をした。

保育者の仕事の退職を考えたことがあるかの問いに対し、あると答えた職員が１０６人（66%）いる。特にフルタイム会計年度任用職員が最もその割合が高い。うち踏みとどまれた理由で最も高かったのが、「家計のために働き続けなければいけない」であった。経済的に雇用条件が高く保育のやりがいが満たされれば、他市町園へ人材の流出につながるところでもある。次に多い理由は、仕事に対するやりがいと誇り、そして身近に相談ができる同僚の存在がある。このことが、仕事を続けていくうえでとても大切な要素であることは、今一度しっかりと認識しておく必要がある。

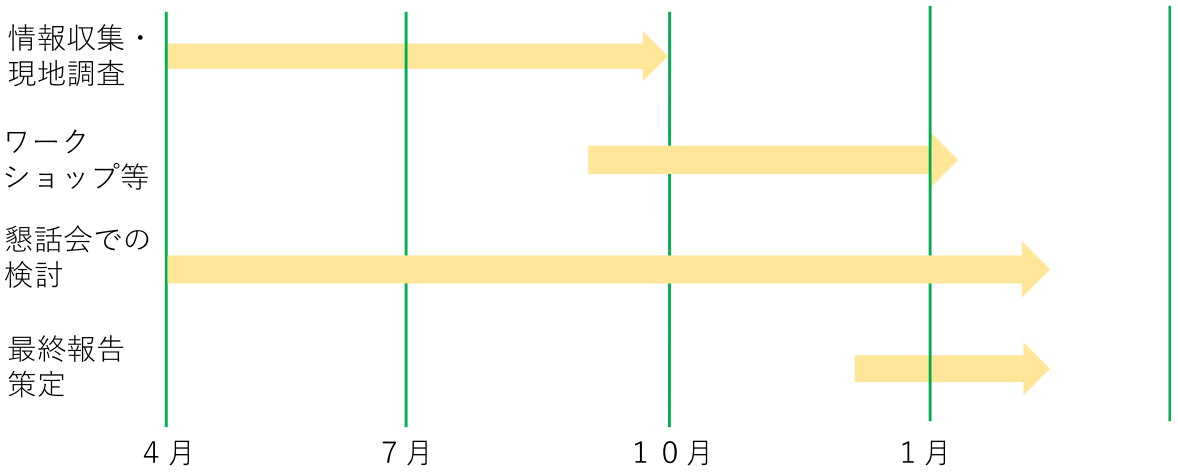
仕事内容や仕事上の悩みの中で、負担に感じることは何かの問いに対し、正規職員は保護者対応や保育計画書の作成、行事に対する負担感が高い。フルタイム会計年度任用職員は、保育計画書の作成、保育日誌の記入と保育教材の準備、保護者対応に対して負担感が高い。パートタイム会計年度任用職員は、職員間の情報共有・打ち合わせや保育計画書の作成、職員の育成に対する負担感が高いという結果である。雇用形態に即した適切な対応が必要である。特に若手職員は、採用後すぐに担任業務があり、即戦力として保護者対応や保育計画の立案など、経

験が浅くわからない点が多い中で、仕事に悩んだときに相談できる相手が身近にあることが大切で、職場の同僚や上司が時間的余裕と心のゆとりを持った対応をしていく職場環境が必要である。

職場に対し日頃改善してほしいことで最も多くの回答があったのが、職員数の増員８８人（55.0%）、次いで給与・賞与等の改善７９人（48.4%）、事務・雑務の軽減 63 人（39.4%）の順である。これら上位の項目は、雇用形態別でいくと正規職員は職員数の増員と事務・雑務の軽減を改善点としてあげる回答者が多く８割近くの人があげている。フルタイム会計年度任用職員についても、正規職員と同様に職員数の増員と事務・雑務の軽減を改善点としてあげる回答者が多く、それに加えて、給与・賞与等の改善をあげる人が多いという特徴がある。パートタイム会計年度任用職員は、給与・賞与等の改善と職員数の増員をあげる人が４割近くいる。

やはり、業務改善をおこない負担を軽減し、保育の質向上をめざすためには、人員の確保とりわけフルタイム会計年度任用職員の増員を図り、早朝と夕方保育の職員ローテーションを円滑におこなうこと。そして、本来その人が担うべき事務と他の者でもできる雑務を仕分けして、雑務については保育事務員の雇用により、保育士の保育時間と事務時間を勤務時間内で完結できる体制を構築していくことが根本的な対策になると考える。

しかし、現実には、フルタイム会計年度任用職員は募集をかけてもなかなか応募がなく対応に苦慮している。日野町の保育現場が近隣市町と比較しても過酷な状況であるとともに、地理的条件が悪いことから、他市町から人材を集めるため、そして日野町で働いている職員の雇用を守り、日野町でやりがいをもって働き続けていただくためにも画期的な処遇改善を図ることが今おこなうべき最も適切な対策であると結論付け、フルタイム会計年度任用職員の処遇と早朝、夕方、土曜日の延長フォローができるパートタイム会計年度任用職員の処遇を改善し、人員確保対策を講じていきます。

4. 今後の予定

本年度抽出した課題を踏まえ、応用できそうな事例を探すため年度前半は事例調査を行います。後半は事例調査を踏まえて将来像にむけた懇話会での議論や、町民向けワークショップを行っていき、年度末の将来像策定を目指します。